

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念を基に事業所の目標や個人の目標を立て取り組んでいる。見やすい所に掲示し、常に意識を持って実践に繋げている。	法人の理念「共に歩む」を具体化した事業所運営理念を作成し、それに基づいたホームの年度目標を立て各職員がファイルに綴っている。事業所運営理念については来訪者にもわかりやすいように玄関や事務所に掲示されており、食堂の冷蔵庫にも貼り意識づけのため日々確認している。また、職員の指針としての「認知症の人をケアする人に求められること、こうありたい姿」の項目を毎朝の引継ぎ時に唱和し周知している。職員も理念を十分理解しており日々実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	散歩をする距離が短くなり、周辺の方とお話する機会が少なくなっているが、隣接する施設での催しの時など交流している。又地区の子供みこしが立ち寄って下さる。	隣接の通所介護事業所と共に区費を納めている。入居者の高齢化に伴い機会は少なくなっているが、散歩時や隣接のデイサービスでの催しに参加し交流している。運営推進会議を通じて働きかけた結果、地元地区の消防団に今年度始めて総合防災訓練に参加していただくことができた。限られた機会ではあるが地域とのおつきあいが徐々に進んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通し、公民館等にて認知症に関する話し合い等があれば参加させて頂きたい旨をお話している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的開催し、利用者様の状況、日々の活動等を報告し、それについてのご意見を頂いている。頂いたご意見を基にサービスの向上に努めている。	家族代表や区長、民生委員、地域包括支援センター職員などが出席し2ヶ月に1回開催されている。写真とコメント入りの「さとびの様子」により入居者の状況や活動報告をわかり易く説明し、出席のメンバー全員から意見・要望を頂いている。外部評価結果についても議題として取り上げている。入居者と一緒にのお茶会の後に開催したり、次回の開催日をその場で決めたり、開催日直前に電話し更に文書を送付する等、メンバーが出席し易いように工夫している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の介護相談員や地域包括支援センターの方々に情報を提供し連絡を取っている。	市の介護相談員の訪問が年に2回ほどある。市主催の介護相談員の会議で高齢者施設等から集約した利用者からの意見や要望が発表される機会がありホームからも出席している。市担当部署に外部評価結果を提出し指導を仰いだり、入居希望者の情報などでも連絡を取り合っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束をしないケア」の意識は常に持っているしかし、リスクの発生が高い個所の施錠は、行う事もある。	現在入居者の行動を抑制するような事態にはなっていない。安全上玄関に施錠することはあるが中庭には自由に出入りできる。ホーム内研修も行われており、職員も身体拘束については正しく理解している。入居者の高齢化により現在は外出傾向の方は見られないが、施設などについては見守りにより回避するようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	接遇委員が先に立ち虐待防止について、話し合いを行っている。一人一人が常に意識を持ち、防止に努めている。		

グループホームさとび・東雲棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を理解する様話し合いを持っている。個々の必要性に応じ情報の収集も行っている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	書類の提示を行い十分な時間をかけて説明し、ご理解を頂いている。又、不安や疑問点などの質問をし易い雰囲気や場所作りにも心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会等を開催し、ご家族のご意見や要望をお聞きする機会を設けている。又、ご意見を表し易い環境作りにも心掛けている。 (ご意見箱、市の相談員の訪問)	家族会はユニット毎に年1回、ホーム全体で年1回開催されている。ご家族の来訪も多く、遠方に住まわれている家族も月に1回は来られている。その際には近況を必ずお知らせし、家族からの意見や要望をノートに書きとめ、職員に回覧し、即対応している。ホームの「さとび便り」が3ヶ月毎に発行されており、家族の元へも配布され、各ユニットにも掲示されコミュニケーションの大切な手段となっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送り時や、ミーティングに於いて意見交換をし、改善に反映している。又、入居者に関する事項に対しては、即対応を行っている。	毎日午後ミニカンファレンスが行なわれており、入居者に関する気づきや法人の各委員会の活動報告がされている。入居者やホームの運営について自由に発言しその場で対応できるものについては即実行に移している。職員が毎年個人目標を設定し、それに基づき年2回法人本部の担当者による個人面談が実施されており、職員にとっては自己点検の機会でもあり意見・要望等を具申する場ともなっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の意見を積極的に取り入れている。又個々の努力や勤務状況を把握し意欲向上に繋がるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を積極的に活用し、全員が参加出来るよう取り組んでいる。力量に応じた研修へ参加している。勤務状況により研修日の調整も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会への参加を行っている。親睦会等を開催し情報交換の場を作り、サービス向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人やご家族からのお話をしっかり伺うようにしている。その中から見えて来た要素に対し、要望に副える様努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	しっかりと耳を傾け、不安、要望の把握を行い、それに副える様努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族の意見を重視しケアプランの作成を行い、それに基づきサービスを実施している。又、他のサービスの紹介や必要性等をお話する事も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の過ごされて来た環境等を理解し、尊厳をもって対応している。又、共感しあえる話題の提供により良い関係作りが出来ている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	「ご家族だから出来ること、施設だから出来ること」をお互いに共有し、共にご本人を支えて行く関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人、友人の訪問や、電話、お手紙等による関係継続には配慮を心掛けている。	入居時のフェイスシートから入居前の生活歴や環境等については職員が十分に把握している。高校時代の同級生や近所の方の来訪を受けたり、お花のお弟子さんとの関係が続いている入居者もいる。入居前からの馴染みの美容院に行ったり、亡き方の月命日や自宅の様子が気になり帰省するなど、職員が関係継続のための支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフ間の情報提供により利用者同士の関係を把握している。状況により中間的な立場に立って橋渡し役を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も希望される利用者様やご家族様には、相談や支援を行うよう努めている。入院された方には状況によりフォローを行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	スタッフ間で情報を共有し日々の変化を見逃さないようにしている。意志の疎通が困難な方もおり本人本位の暮らし方に力を入れている。	時には気づき過ぎて機嫌を損ねることもあるが、自分の意志を表現できないような方には職員が思いや意向を推測し対応している。開設以来の入居者もおり、入居者同士あるいは入居者と職員との間には深い思いやりや慰めあう関係が築かれており、お互いが支え合う間柄となっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族様から情報を頂き、その情報を基にミーティングを行っている。又これまでのサービスの経過についても意見を出し合い検討している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ほぼ毎日、昼休みに情報交換を行い日々変化する利用者様の状況把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族様ご本人の意思意向をお聞きしそれを基に必要な関係者と話し合い作成している。担当制にはなっているが情報交換により全員の状況の把握に努めている。	職員は一人から二人の入居者を担当しており、協力医や看護師の意見などを入れサービス計画の原案を作成、計画作成担当者と共に検討している。3月末、6月末、9月末、12月末と四半期毎に全入居者の介護計画の見直しを実施しており、入居者や家族の要望を加え、途中で入居した場合は暫定計画で対応している。入居者に関する情報、介護方法、介護計画などを一括し、全職員が常に見られるようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	カーデックス、申し送りノート等に個別で記録し、職員全員が内容を共有している。又その中の事柄により話し合いを行い介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々状況によりご本人の一番望まれるサービスの提供に心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域運営推進委員や市の相談員の訪問を受け情報交換を行っている。又その際には利用者様とお話ができる場の提供もを行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前に「協力医療機関がかかりつけ医となる」事を説明し同意を得ているが、これまでの医療機関での受診を希望される場合は受診が出来るよう支援している。	入居前のかかりつけ医を希望する場合は継続している。毎週月曜日に協力医療機関の医師による往診が行われている他、看護師も火、水、木曜日に訪れている。金曜日の午後2時間、非常勤職員として看護師が勤務しており、手厚い対応がとられている。依頼をすれば歯科医の往診もあり、職員により協力医療機関への通院介助を行うこともある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の訪問時に気づいた点を報告相談しアドバイスを受け健康管理を行っている。日常の気づきや変化については常にスタッフ間で情報交換を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	法人グループの医療関係者を含め、入院時の医療関係者とは情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人ご家族の意向を尊重し、医師や看護師との相談を重ね方針を決めている。又ここでの生活を一日でも長く送られる様対応している。	法人としての「重度化及び終末期に向けた指針」があり、法人内の地域密着型サービス部会で話し合い、認知症高齢者に対応した指針・「重度化した場合における(看取り)指針を作成した。入居者が年々重度化・高齢化している折、東雲ユニットで昨年お一人の入居者の方の看取りを行った。今年も家族や医師、看護師と相談しながら意思統一をし、「看取り介護についての同意書」をいただいたが幸いなことに回復されたという例もある。今後もホームが対応出来る人数などを考慮しつつ最大の支援方法を取る意向である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訓練は定期的には行っていない。看護師や、参考書からのプリント物にて自主学習している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得た訓練は年二回行い、ミニ訓練は毎月一回行っている。又運営推進会議を通じ地域への協力をお願いしている。 スプリンクラーが設置された。	年2回の総合防災訓練を実施している。今年度は「夜間想定」での実施もあり、消防署及び初めての地元消防団協力のもと入居者も参加し大々的に実施された。毎月1回のミニ訓練では消火訓練や連絡網訓練など重点課題を設け実施し、いざという時に備えている。今年、スプリンクラーが設置され、火災報知器についても既に備え付けられている。食料品の備蓄は年度ごとに増量されており、現在2日分が蓄えられている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方の人格を尊重し、プライバシーを配慮した対応に心掛けている。接遇委員と協力し自己チェックを行い常に振り返っている。	入居者への呼び掛けは人生の大先輩・目上の方を敬う意味から「○○さま」で統一している。法人内の専門部会である接遇委員会が作成した「職員の接遇基準」自己シート100項目にも人格の尊重や守秘義務についての項目があり、各職員ごとに振り返っている。人の尊厳やプライバシー確保についてのホーム内研修も実施されており、入居者に対しては勿論、職員間での遵守事項についても周知徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定や希望を訴え易い環境作りや、関わり方に心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人のペースでの生活を優先している。都合のある場合は、ゆっくりお話しをし理解して頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみには常に心掛けている。おしゃれに対する意識を持って頂ける様な声かけをしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を楽しんで頂く様、味付けや、盛り付けに工夫をしている。食事時の会話から好み等を聞き、次回の参考にしている。職員も同じ物と一緒に食事をし共通の話題を持って楽しんでいる。	献立は職員が立て、視覚から感じる食へのこだわりもあり、毎日写真をとって保管している。食形態についての法人の基準があり、「一口大」や「刻み」、「トロミ」に配慮しつつ形を成るべく残し器に盛りつけている。おやつも手作りで旬を感じさせるものを提供している。高齢化により「手伝おう」という意志の持続が難しくなりつつあるが、入居者はモヤシの芽を取ったり、柿の皮むきなど、できる範囲で手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に合わせている。医師や栄養士からのアドバイスが必要な方もおり、それぞれに応じた対応となっている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個別の口腔ケアを行うよう徹底している。一人ひとりの状態により介助方法や適切な歯ブラシの提供を行っている。		

グループホームさとび・東雲棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンによりトイレ誘導を行っている。又、訴えの行動を見逃さないよう職員間で注意をし合い失敗を減らす事にも心掛けている。 オムツの使用は最小限に留めている	高齢化や重度化により両ユニットとも自立されている方が少なくなりつつある。職員は把握したパターンに沿って時間帯で支援しようとしているが、移動すること自体に時間がかかり、間に合わないことも多くなってきている。万が一に備えリハビリパンツなどを使用されている方もおり、トイレへの移動が難しい方には夜間のことも考え居室にポータブルトイレを備えつけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の工夫や運動にて予防に心掛けている。しかし薬での排便を余儀なくされる事もあり、医師と常に連携をとっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週4日を入浴日に当てている。この間に2回入浴して頂く様にしている。体調やタイミング等をお聞きし無理強いはいしない。	入浴日は週4日と決められているが、各入居者は少なくとも週2回入浴しており、要望があればいつでも対応ができる。入浴の時間は職員の勤務状況に合わせて日中の時間帯となっている。入浴方法も入居者の状態に合わせ、チェア浴やシャワー浴などきめ細やかな対応をしており、入浴を拒む方は現在殆どいない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各人ご自由な場所にて休まれている。職員は常に状況を見守っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	用法、用量については、常に確認し理解している。薬の変更があった場合はスタッフ全員に速やかに通達し徹底している。又日常の変化を医師に報告し服薬の調整を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味をお持ちの方には役割を持って頂いている。個人個人の情報を基に興味のある話題を提供しお誘いしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個人の体調、体力に合わせた行動となっている。ご家族の協力の下外出を楽しまれている。	高齢化や重度化に伴い活動範囲が限られてきている。中庭や駐車場での散歩、隣接デイサービスの催しへと敷地内を歩き参加している。家族会でぶどう狩りに出かけたり、家族と一緒に食事に出かけたり、お盆や正月に一時帰宅する入居者もいる。晩秋から春にかけて、中庭でひなたぼっこをして外気に当たるなど気分転換の機会も設けている。	

グループホームさとび・東雲棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設側での管理となっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様の了解の下、利用者様の要望に対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースには観葉植物やお花等を置き、壁には季節の暖簾を掛けるなど、落ち着いた場所の提供に心掛けている。	天井の高いホールに入ると中庭に面した大窓から自然の光が注ぎこんでいる。ホールは広く、テレビのあるソファのコーナー、小人数用のテーブルが数脚並べられた中央部分、キッチン兼食堂コーナーとゆったりとした配置となっている。床暖房が整備されエアコンも設置されているので冬場でも快適な生活が送れるようになっている。入居者・職員の手作りの作品も方々に飾られている。静かな音楽が流れる中、入居者同士でトランプや花札を楽しんだり、折り紙や紙粘土細工などを中央のテーブルで行なっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有の場所には、ソファ、テーブル、テレビ等を置き、一人でも、多数でも過ごせるよう工夫している。利用者様は思い思いに過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の愛用されていた物を置かれており、それぞれの特徴が生かされた居室となっている。その気持ちを大切に、心地よく過ごして頂くよう配慮している。	居室には洗面台と収納庫が備え付けられている。入居前にご自身が愛用されていたのだろうと思われる自宅より持ち込まれた年代もののタンスやテーブルなど数多くの調度品に囲まれた居室があり、収納庫に物を収め整理整頓の行き届いた比較的簡素な居室も見られた。お気に入りのタレントの写真や家族の写真、趣味として長年親しんできた花などが飾られ、各入居者の個性が感じられる居室となっている。エアコンも完備されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	「できること」「わかること」を日々意識している。そしてその部分を生かして頂けるような促しもしている。		